

# 2024 年度 事業 報告 書

特定非営利活動法人 地球のステージ

## I 事業の成果

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関連するCD、絵はがきなどの有償提供

### ●地球のステージ実施事業

- ・ 国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は 66 回で、前年より 12 回増となった。しかし、コロナ禍以前までの公演実績までは回復していない。
  - ・ 公演終了後の質疑応答、希望者を募って交流会を行うケースも増えてきている。
  - ・ 地球のステージの語りだけの新しいシリーズ(代表の桑山による講演会)の実施。対面式の講演を7回(うちオンライン1回)実施。対象やテーマに応じて、内容を少しずつ組み替えながら実施。国際協力や人々との共存についても考えられるような内容とした。ガザ紛争を受け、ムスリムコミュニティからの依頼や活動報告を兼ねたものも多かった。また、桑山の専門分野である心のケアをテーマにした講演も実施した。
- ③ 医療、教育、職業訓練などを通しての国際支援事業
  - ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
  - ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

### ●東ティモール事業：ボボナロ県における医師・助産師への能力強化を通じた母子保健サービスの質向上事業

- ・ 4月より、11医療施設で施設状況調査、同施設所属の医療従事者25名に医療状況の聞き取り調査、11集落の住民319名に医療受診状況などの聞き取り調査を実施。7月には7医療施設に所属する15名の助産師を対象に妊婦健診ガイドライン研修を実施した。
- ・ 5月に3医療施設の助産師6名と看護師1名に、母親学級実施方法ワークショップを開催。
- ・ 6月から3月までに母親学級を18回実施。参加者は妊娠出産に関わる正確な知識を得ることができた。
- ・ エコートレーニングに必要なポータブルエコー機器20台を購入。
- ・ エコー研修  
8月にボボナロ県10医療施設所属医療者12名(医師10名、助産師2名)へエコー研修を実施。その後、10月から12月にかけてエコートレーニングのOJTを実施。  
1月にFUAT(Follow-up after training):エコー指導専門家による研修生への現場モニタリングを実施。  
2月にエコー最終試験と修了式:27日、28日にエコー最終試験(筆記と実技)を実施、試験後には修了式を行い合格者には国の技術認定書が授与された。
- ・ 12月に妊婦健診に関与する医療者約20名に、日本人専門家(医師・精神保健)が医療コミュニケーションセミナーを実施した。本研修により、妊婦の医療受診への心理的障壁の削減や他種医療職間での連携促進の意識づけができた。
- ・ コミュニティへの啓発イベントの開催

男性も含むコミュニティ全体に、妊産婦への知識・理解を深める啓発イベントを2月に開催した。村長、父親、妊産婦のいない家庭などコミュニティ全体が妊娠・出産に関する知識を深める機会となった。

### ● ウガンダ事業：ウガンダ北部南スーダン難民およびホストコミュニティに対する心理社会的支援モデル構築事業

- ・ ビディビディ難民居住区ゾーン3(全5ゾーン(区域)の中で子どもが最も多い)にある小学校12校(2025年に10校に統廃合)のうち、4校で心理社会的支援(PSS)ワークショップを実施した。  
参加児童28人：ウガンダ人児童13人(男児5人・女児8人)、南スーダン人難民児童15人(男児9人・女児6人)、平均出席率91%
- ・ 2024年11月最終週、各校別に最終発表会を実施。対象の子ども、保護者、ユンベ地域の政府高官・行政関係者、難民自治組織のリーダー、UNHCR、同地で活動するNGOや宗教リーダーを招待した。それぞれの会が盛況で、子どもたちのワークショップの活動紹介や作った歌が発表され、高く評価された。
- ・ PSSファシリテーター養成研修終了。全16名のPSSファシリテーターに修了書授与。平均出席率95%
- ・ 大人向けPSSを4地域で2回、1回につき7ワークショップを実施。1回目は1~2月、2回目は3~4月に開催。計56名の大人が参加。ケアを受ける子どもの家族やコミュニティの大人にPSSを体験してもらい、自身の経験と向き合う機会となったとの評価を得た。
- ・ 1年目、2年目で育成したPSS人材(ファシリテーター、PSOP)が自身の地域でPSSを開始。青少年育成の一環として、また地域の大人の集いの場として自宅の庭や小学校、コミュニティセンターで開催している。PSS人材には「心の奥底に隠していた辛い記憶をみんなに聞いてもらえてスッキリした」、「自分だけが苦しんでいるわけではない」という2つの想いが強く、コミュニティの人々にPSSを提供してあげたいという意欲で取り組んでいる。参加する人々も涙しながら「忘れられないあの日」を語り、PSS人材同様、自分だけではない、隠していたこと、隠さないといけなと思っていたことを聞いてもらえたと、参加できてよかったという声があがってきたことはプロジェクトの成果である。
- ・ 対象小学校1校に、周辺地域の拠点となる多目的PSSセンターを設置。

### ● 災害・紛争時に対する緊急医療支援活動

#### (パレスチナ事業)

ガザ地区南部における心理的応急処置活動とその後精神保健・心理社会的支援事業を実施した。また、ガザ地区において食糧配給も実施した。

- ・ 心理社会的応急処置(PFA)、精神保健・心理社会的支援(MHPSS)  
4月はラファ市内にあるUNRWAが管理運営する学校に避難所にて実施。5月のラファへの地上侵攻以降はハンユニス市内にあるUNRWAが管理運営する学校避難所にて、6~15歳の子どもたちを主な対象に週4日、1回2時間ほどのPFAおよびMHPSSを実施した。また、集団でひとつの絵を描いたり、体験の語りを引き出したりして、少しずつトラウマ予防につながる活動を取り入れた。

毎回 100 名を超える子どもたちが参加し、その周囲を親御さんや年少の子どもたちが囲み、避難所に明るい雰囲気となごみの時間をもたらしていった。

・食糧配給

PFA および MHPSS に参加する子どものうち、親がいなかったり就労が難しかったりする脆弱世帯を対象に、小麦や米などの穀物を中心とした食糧配給を実施。

2025 年 2 月、一時停戦が実施された後、1 回目の配給を実施。200 世帯の子どもたちに食糧パッケージを手渡した。

・オンライン報告会

2025 年 3 月 19 日、ご寄付をいただいた方を対象にオンライン報告会を開催、約 35 参加

2025 年 3 月 30 日、モハマッドの死を受け、現地の状況やモハマッドの生き様を伝える第 1 回報告会「モハマッドの死を受けて」をオンラインにて配信、約 170 名参加

(その他海外事業・ウクライナ支援事業)

・ファシリテーター候補生に対して、PSS 専門家が研修を行った。

・ウクライナ事業: オデーサ市における戦争被災者への心理社会的支援事業

(2024.12 月より JPF 事業)

- ・ PSS ワークショップ(子ども/成人): 1 月より PSS ワークショップ(子ども/成人)を開始。
- ・ 月に数回はオンラインで専門家が現地ファシリテーターと面談し、ワークショップ実施の課題などへの対応策を助言を行い実施している。

● 国内災害復興支援事業

・東日本大震災復興支援事業

- ・ 館内や出張語り部の際に流す活動紹介ビデオの日本語字幕版を制作(聾啞者来訪に備えて)。
- ・ 3 月 11 日、閑上の記憶主催の追悼のつどいに運営の補助として代表、スタッフが参加した。
- ・ 建物の支援を行った

・能登地震復興支援事業

- ・ 2024 年 4 月 1 日~3 日、ファシリテーター養成講座を実施  
2024 年 4 月~8 月は輪島市、10 月~2025 年 3 月は七尾市で心理社会的支援(PSS)を実施した
- ・ PSS に対するアドバイザー業務(ZOOM での相談業務)  
→ 月 2 回実施、計 10 回(輪島市事業)  
→ 月 2 回実施、計 12 回(七尾市事業)
- ・ 輪島市、七尾市にて実際の PSS 活動を視察し、アドバイスをを行った  
→ 2024 年 4 月、6 月、7 月(輪島市事業)  
→ 2025 年 1 月 29~30 日、2 月 28 日(七尾市事業)
- ・ スピンオフ映画「ななおの海」撮影  
能登島の子どもたち、常盤貴子さん他出演  
桑山、後藤、石橋、GNJP スタッフにて脚本、撮影、編集  
2025 年 3 月 21 日~3 月 25 日で撮影。今後編集を行い、上映予定。

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関する CD、絵葉書などの有償提供

#### ● 地球のステージ公演事業

- ・事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催、地球のステージ講演会
- ・日時 通年
- ・場所 日本全国の学校体育館・ホールなど
- ・従事者人数 約3名(1公演)2名(マネジメントスタッフ)
- ・対象者 学校の生徒・教職員、一般参加者 約 25,000 人
- ・支出額 17,822,449 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

#### ● 東ティモール支援事業

- ・事業内容 ボボナロ県では妊産婦や新生児の死亡が他県と比較して多く発生しており、これらは妊婦健診等の母子保健サービスの質の低さが一因となっている。医療者がハイリスク妊娠を確度高く判別できるように、医師・助産師への能力強化を通じた医療の質向上をめざす。さらに質の高い医療へのアクセス向上により、予防できる妊産婦死亡および新生児死亡が減少することをめざす
- ・日時 2024年3月31日～2025年3月31日(N連事業/継続)
- ・場所 東ティモール民主共和国 ボボナロ県マリアナ市およびボボナロ郡
- ・従事者人員 日本人スタッフ5名、東ティモールスタッフ8名、専門家1名
- ・対象者直接裨益者:約1,200人(ボボナロ県医療者、ボボナロ県保健局職員、保健省及び国立保健機関、対象地妊産婦、村長等)
- ・間接裨益者: 約4万人(妊産婦の家族および地域住民)
- ・支出額 80,954,538 円

#### ● ウガンダ事業

- ・事業内容 ウガンダ北部に避難している南スーダン難民と貧困や家庭内暴力等に苦しむウガンダ国民を対象に心理社会的支援(PSS)を行う。
  - ① 場所の確保:心理社会的支援センターの設立
  - ② PTSDの発症予防:心理社会的支援プログラム(子ども・大人対象)
  - ③ 人材育成:実践者の育成(ファシリテーター、PSOP:PSSを理解し展開を支える人)
  - ④ 学校、医療福祉従事者への心理社会的支援セミナー

- ・日時 2024年4月1日～2025年3月31日(N連事業/継続)
- ・場所 ウガンダ北部ユンベ県南スーダン難民ホストコミュニティ地区およびビディビディ難民居住区
- ・従事者人員 日本人スタッフ4名、現地スタッフ6名、専門家3名
- ・対象者直接裨益者:308人 PSSワークショップ:112名(対象4校の子ども)  
PSSファシリテーター:16名、PSOP研修:20名  
コミュニティPSSワークショップ:約160名
- ・間接裨益者: 約3,000人(直接裨益者の家族や友人、事業外研修の受講者)
- ・支出額 60,679,875円

● 災害・紛争時に対する緊急医療支援活動

(パレスチナ支援事業)

- ・事業内容 ガザ地区南部における心理的応急処置活動とその後の精神保健・心理社会的支援事業(第二期)  
ガザ地区における食糧配給と精神保健・心理社会的支援事業(第三期)
- ・日時 2024年4月1日～8月31日 第二期(初動対応期)  
(JPF事業期間:2024年3月28日～8月31日、9月1日～11月23日は自己資金にて事業継続)  
2024年11月24日～2025年3月31日 第三期
- ・場所 パレスチナ自治区ガザ地区ラファ市、ハンユニス市
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ8名
- ・対象者直接裨益者:23,400人(ラファ市、ハンユニス市のUNRWAが管理する学校避難している6～15歳の子どもたちのべ20,400名(MHPSS)とその家族のべ3,000名(食糧配給)
- ・間接裨益者: 約97,200人(ケアを受ける子どもたちの家族のべ)
- ・支出額 18,609,893円

(その他海外事業・ウクライナ支援)

- ・事業内容 オデーサ市において、戦争被災者に心理社会的支援を実施するための調査ならびに、現地提携団体との契約。ファシリテーター候補者へのPSS研修。(自己資金)  
1月より戦争被災者に対して被災者の心のケアを行っている(JPF事業)
- ・日時 2024年4月1日～2024年12月15日(自己資金)  
2024年12月16日～2025年3月31日(JPF予算)
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、専門家2名、現地スタッフ7名
- ・直接裨益者 2,000人(PSSを受ける子ども、大人のべ人数)
- ・間接裨益者 8,000人(PSSを受ける人の家族や友人、養成されたファシリテーターからPSSを受けるのべ人数)
- ・支出額 6,342,410円(計)

## ● 国内災害復興支援事業

### (東日本大震災復興支援事業)

- ・事業内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の後方支援  
(追悼の集いにおける人的支援ならびに、閑上の記憶建物支援)
- ・日時 2024年4月1日～2025年3月31日
- ・場所 宮城県名取市閑上
- ・従事者人員 スタッフ2名
- ・裨益者数 追悼の集い参加者 350名

### (能登地震復興支援事業)

- ・事業内容 NPO法人「グッドネーバース・ジャパン」と事業提携を行い、石川県輪島市、七尾市において、被災した子どもたちへの心理社会的支援(PSS)を行った。また、それを担うファシリテーターの育成とスーパーバイズも実施した。3月にはスピンオフ映画として、能登島の子どもたちと女優常盤貴子さんも参加し「ななおの海」を撮影
- ・日時 2024年4月1日～2025年3月31日
- ・場所 石川県輪島市・七尾市
- ・従事者人員 スタッフ2名、専門家1名
- ・裨益者数 1,596人(輪島市、七尾市 PSSを受ける子どもたち)
- ・支出額 2,110,498円(計)